

# RICOH REPORT

2013



**RICOH**  
imagine. change.

## Contents

- 1 トップメッセージ
  - 5 決算レポート
  - 7 事業紹介
    - ▶ お客様起点のワンストップソリューションを提供
  - 9 サステナブルな企業活動
  - 11 ニュースファイル
    - ▶ APEC 交通大臣会合にリコーのソリューション・サービスを提供
    - ▶ スポーツ祭東京 2013にリコーのITシステムを提供
    - ▶ 撮影者を取り囲む全天球イメージを撮影可能 [RICOH THETA] 新発売
    - ▶ Kマウントデジタル一眼レフカメラ最上位機種 [PENTAX K-3] を新発売
  - 13 株主様 Information
- 裏表紙 企業情報

株主の皆様へ



代表取締役 会長執行役員 代表取締役 社長執行役員・CEO

近藤 史朗

三浦 善司

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2013年度第2四半期連結累計期間(2013年4月1日から2013年9月30日まで)の事業のご報告をするにあたりまして、皆様からのリコーグループに対するご理解とご支援に厚く御礼申し上げます。

2013年度第2四半期連結累計期間のリコーグループ連結売上高は、前年同期比15.1%増の1兆555億円、当社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べて129億円増加し247億円となりました。欧州の景気低迷、中国をはじめとする新興国での成長減速など、リコーグループを取り巻く事業環境は厳しい状態が続きましたが、お客様に新しい価値を提供する事業構造への転換や、構造改革による効率化を着実に進め、前年同期に比べ四半期純利益の大幅増を達成することができました。

中間配当金につきましては、前年同期より4円増配の16円50銭とさせていただきます。

2013年度の業績見通しにつきましては、当第2四半期の業績および為替などの事業環境をふまえて、売上高2兆1,800億円、当社株主に帰属する当期純利益は800億円を目指してまいります。

皆様には倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

2013年11月

トップ  
メッセージ

# 三浦社長に リコーグループ 経営について

## 「経営環境に関する認識」

Q | 日本や世界の経済を  
どのように見通していますか。

日本経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景に、円高の是正や株高の進展など、景況感に改善の動きが見え始めています。一方、世界経済は、米国では緩やかな回復が続いています。欧州では底入れの兆しが見られるものの依然として景気低迷が続いています。中国をはじめとする新興国においては、先進国と比べると依然高い成長をしておりますが、成長の減速が見られます。

Q | 市場や顧客には  
どのような変化が見られますか。

世の中の情報量は増大し、情報を扱う機器やサービスは進化しています。コミュニケーション方法や働き方は多様化し、オフィスに限らずいつでもどこでも仕事ができる環境へのニーズは、今後も高まり続けると考えています。

# 聞く

## を取り巻く環境と

代表取締役 社長執行役員・CEO  
**三浦 善司**

こうした変化は、私たちにとって大きな機会と捉えています。リコーグループの強みである「お客様接点力」と「ものづくり力」により、コミュニケーションや働き方の変革を先導する新しい価値提供ができると考えています。

### 「第17次中期経営計画について」

**Q** 第17次中期経営計画（以下、17次中計）ではどのような戦略を展開していますか。

基本戦略として「事業の創造と集中」と「高効率経営の実現」を掲げています。

「事業の創造と集中」では「新陳代謝」をキーワードに「基盤事業による収益力の徹底強化」、「基盤事業における新収益モデルの確立」、「新規育成事業の成長加速」を重点施策として展開しています。

「高効率経営の実現」では「体質改造」をキーワードに「経営効率のさらなる向上」を重点施策として組織・業務プロセス・人員配置などのあり方を見直す活動を展開しています。

### 「2013年度における取り組みについて」

**Q** 2013年度はどのような経営方針ですか。

リコーグループは、17次中計においてさらなる飛躍を遂げるために、多岐にわたる施策を積み重ねてきました。2013年度は、その真価が問われる重要な年と位置づけています。一連の取り組みを完遂し本格的な成長軌道へと移行するために、「体質改造の文化を定着させて成長を加速する」を基本方針として、以下の4つの重点施策に取り組んでいます。

#### 2013年度（2014年3月期）基本方針

<第17次中期経営計画における基本戦略>  
「成長」と「体質改造」の同時実現

<2013年度 基本方針>  
体質改造の文化を定着させて成長を加速する

1. 基盤事業による収益力の徹底強化
2. 基盤事業における新収益モデルの確立
3. 新規育成事業の成長加速
4. 経営効率のさらなる向上

## Q | 4つの重点施策の進捗について 教えてください。

### 1. 基盤事業による収益力の徹底強化

オフィスイメージングでは、2013年7月に複合機の中核機種種の製品群を刷新(5機種19モデル)しました。これらは、業界最高水準の低消費電力を実現するとともに、スマートフォンやタブレット型PCからも簡単に出力できるなどモバイルやクラウドにも対応する総合情報端末へと進化しています。

新興国市場では、各地域のニーズに応じた製品やサービ



スを創り込むために、現地における研究開発・マーケティング機能を強化しています。

プロダクションプリンティングでは、カラー、モノクロ機ともに製品群を拡充し、販売台数と印刷量の増加に伴って収益を拡大させています。

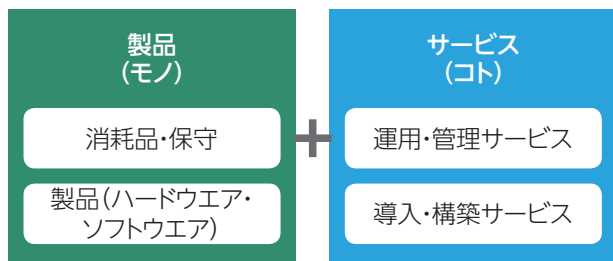
### 2. 基盤事業における新収益モデルの確立

マネージド・ドキュメント・サービス\*やITサービスのグローバルでの拡大を進めるとともに、M&Aを含めたサービス事業体制を強化しています。また、プロジェクトシステム、テレビ会議システム、インタラクティブホワイトボード、ペーパーレス会議システムなどのコミュニケーションや働き方の変化に対応した新しい製品やサービスを提供し、リコーグループならではの「モノ(製品の所有)」+「コト(サービスの利用)」のワンストップソリューションで強固な収益モデルを構築しています。こうした事例をP7～P8の事業紹介にてご紹介しています。

\*マネージド・ドキュメント・サービス

お客様の文書に関わる運用管理業務を受託し、コスト削減と生産性向上を実現するサービスです。さらには、文書の作成、活用、保管などの業務を可視化、分析し、改善を提案することで、お客様の抱える課題を解決に導きます。

## ■ 製品(モノ) + サービス(コト) でお客様価値を提供



### 3.新規育成事業の成長加速

産業分野では、光学や画像処理技術を融合させて、産業用途に付加価値の高い新しい製品を提供しています。例えばこの上期は、画像処理技術により雨天などの環境下でも鮮明に観測ができるデジタル双眼鏡を発売しました。

コンシューマ分野では、レンズ交換式カメラを核により確固たる地位を築くことを目指しています。また、撮影者を取り囲む全天候の撮影が可能となる世界初のコンシューマ向け全天候カメラを発売しました。こうした新しい価値を提案する製品を投入するとともに、海外販売網を強化しています。

### 4.経営効率のさらなる向上

すべての組織と一人ひとりが、お客様の満足と感動の



追求により一層集中するよう体質改造を進めています。2013年4月に国内における設計機能および生産機能を再編し、リコーテクノロジーズ社、リコーインダストリー社を設立しました。開発力と生産性のさらなる向上を加速しています。

これらの重点施策を確実に実行し、2013年度の業績目標達成と成長加速にリコーグループ一丸となって取り組んでいます。

## 売上高

国内は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策を背景に、円高の是正や株高の進展など、景況感に改善の動きが見られ、前年同期比3.0%の増収となりました。海外は、欧州での景気低迷や、中国などの新興国で成長の減速が見られたものの、為替影響に加え、高付加価値製品の販売、サービス事業が堅調に推移し、前年同期比25.7%の大幅増収となりました。その結果、国内外合計の売上高は10,555億円と前年同期比15.1%の増加となりました。

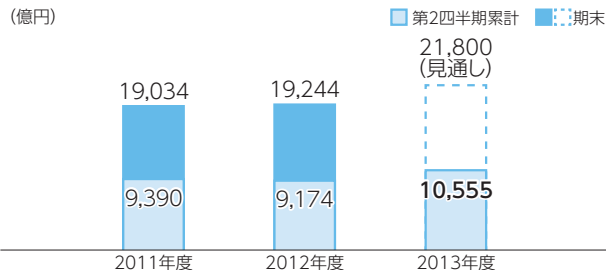
## 営業利益、四半期純利益

営業利益は為替の影響に加え、製造原価の低減、構造改革の効果による経費削減などにより、458億円となりました。また、これに伴い、四半期純利益は前年同期比129億円増加し、247億円となりました。

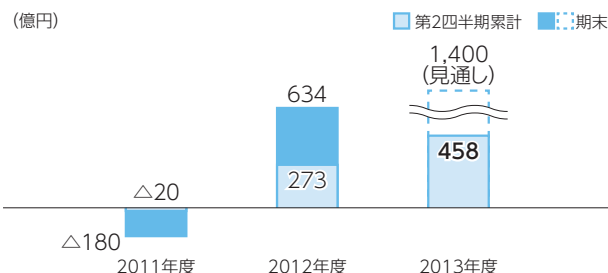
## 配当金

業績の回復をふまえ、中間配当金は16.5円（4円の増配）と決定しました。年間配当金は4円増配の年間33円を予定しています。

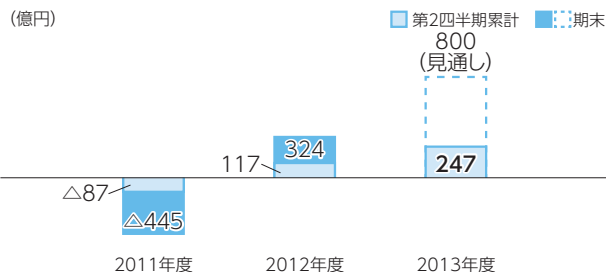
### ● 売上高



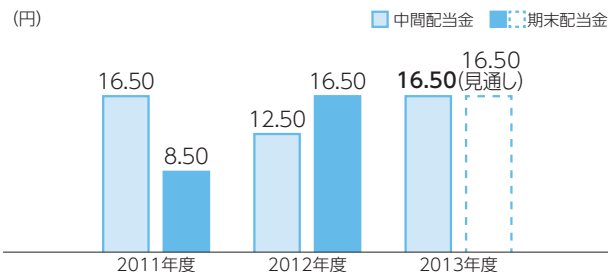
### ● 営業利益 (損失)



### ● 当社株主に帰属する四半期純利益 (損失)



### ● 1株当たり配当金の推移



● 分野別売上高

売上高 構成比 前年同期比

● その他分野

807億円 7.6%

+11.6%

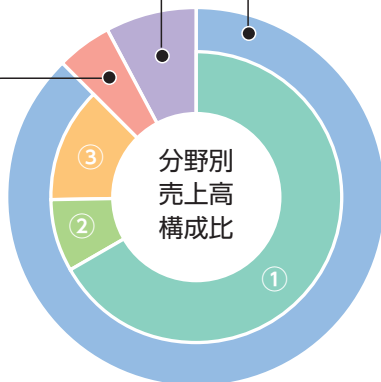
- デジタルカメラ事業やリース・ファイナンス事業の売上高が増加したことにより増収となりました。

● 産業分野

515億円 4.9%

+8.8%

- 光学ユニット事業の売上高が増加したことにより増収となりました。



● 画像&ソリューション分野

9,232億円 87.5% +15.7%

① オフィスイメージング事業

7,047億円 66.8% +12.5%

- 複写機・複合機においてカラー機が伸長し、マネージド・ドキュメント・サービス (MDS) も欧米を中心に2桁成長を継続しています。また円高の影響もあり、売上高は2桁成長となりました。

② プロダクションプリンティング

852億円 8.1% +22.8%

- 円安の影響に加え、海外を中心に新製品やアフターサービスが伸長し、2桁成長を達成しました。

③ ネットワークシステムソリューション

1,332億円 12.6% +30.7%

- 国内外でITサービス、プロジェクトシステム、ユニファイド コミュニケーション システムが伸長し、大幅増収となりました。

● 地域別売上高 売上高 構成比 前年同期比

● その他

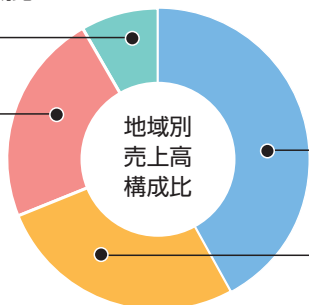
851億円 8.1%

+30.5%

● 欧州・中東・アフリカ

2,405億円 22.8%

+28.5%



● 日本

4,438億円 42.0%

+3.0%

● 米州

2,860億円 27.1%

+22.1%

# お客様起点のワンストップソリューション

リコーグループの強みは、充実した製品ラインナップと、グローバルに展開する販売・サポート体制でお客様ごとに最適なソリューションを提供することです。そして今お客様への提供領域を従来のドキュメント関連のみならず、ITサービスやコミュニケーションにまで拡大することで、効率的な情報インフラやワークフローの構築、その運用管理にいたるソリューションをワンストップで提供しています。

## 1. ドキュメント

いつでも、どこでも、すぐにドキュメントを活用・共有

機器・ドキュメント・情報インフラ、すべてが連動した効率的かつ最適なソリューションを提供しています。

環境性能に優れ、モバイルやクラウドに対応した製品を発売

RICOH MP C6003/C5503/C4503/C3503/C3003 シリーズ

### 特長

- プライベートクラウドサービス[RICOH e-Sharing Box] (別売) の利用により、外出先で、スキャンした文書やファクス文書、パソコンで作成した文書などの閲覧・確認が可能。
- クリックやドラッグなどの直感的な操作を実現した大型フルカラータッチパネル[MultiLink-Panel]を搭載。
- スリープモードからの5.1秒\*の高速復帰と全シリーズが業界トップの標準消費電力量(TEC)を実現。
- 従来機(RICOH MP6001)比で65%以上の軽量化と占有面積の37%の省スペース化を実現。

\*RICOH MP C3503の場合



RICOH MP C6003

## 2. ITサービス

リコーがお客様のITシステムの構築・運用・管理までをワンストップでサポートすることでお客様は安心してコアビジネスに専念

基盤事業のドキュメントビジネスに加え、お客様のビジネスに欠かせないITサービスにまで提供領域を拡大しています。

お客様のさまざまなお困りごとを解決するITサービス【ソリューション事例】

### お困りごと①

IT担当者が、日頃のITサポート業務(PCの故障などの社内の問題対応)に追われ、企業の成長に不可欠なIT戦略の構築や遂行にあてる時間が取れない。

### 解決

リコーがITサポート業務を請け負うことで、IT担当者は戦略的な業務に注力できます。また、お客様のすべての従業員はつねに手厚くサポートを受けることができます。

### お困りごと②

頻繁なネットワークのダウンによって、生産性の低下やビジネス機会の喪失など予期せぬコストが発生してしまう。

### 解決

リコーのITサービスでは、常時ネットワークをモニターし、問題が発生する前に防ぐ手段を講じます。突然のサーバーダウンやそれにとまらぬロスやコストの発生を防ぐことができます。



# を提供

## 3. コミュニケーション

### いつでも、どこでも、簡単にコミュニケーション

お客様のワークプレイスは、オフィスにとどまらず、外出・出張先、自宅など多様化しています。また、ビジネスがグローバル化する中で、海外拠点や取引先とのコミュニケーションの重要性が高まっています。

リコーは、個々のお客様のビジネススタイルに応じて、「いつでも、どこでも、簡単に」コミュニケーションを実現する環境を提供しています。

簡単にいつでも  
どこでも利用でき、  
最大20拠点を同時接続  
可能なテレビ  
会議システム



ユニファイド コミュニケーション システム



多拠点とリアルタイムでつながる

わずか11.7cmの  
超至近投写を可能とし、  
置く場所に困らない  
超短焦点  
プロジェクター



プロジェクションシステム



同じ資料を見ながらコミュニケーションできる

クラウド  
ネットワーク

インタラクティブ  
ホワイトボード

パソコンなどの  
データを映し出すだけでなく、  
ディスプレイへのなめらかな  
書き込みや遠隔地との  
コミュニケーションも  
実現する電子黒板



休憩場所や小さな会議室にも手軽に設置して投写

## ◆ [Dow Jones Sustainability World Indices] 構成銘柄に採用

2013年9月、リコーは、世界的に権威のある社会的責任投資(SRI)指標の一つである「Dow Jones Sustainability World Indices」(DJSI World)の構成銘柄に採用されました。また、同時に「Dow Jones Sustainability Indices」のアジア・パシフィック版である「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Indices」(DJSI Asia Pacific)にも採用されました。

MEMBER OF

**Dow Jones  
Sustainability Indices**

In Collaboration with RobecoSAM ●●

DJSI Worldは米国のダウ・ジョーンズ社とスイスのRobecoSAM(Sustainable Asset Management)社が提示する株式指標で、経済・環境・社会の3つの側面から企業の持続可能性を評価するものです。今年、世界の約2,500社がDJSI Worldの対象として調査され、333社が採用されました。リコーが分類されている「コンピュータハードウェア&オフィス機器業界」には、35社がエントリーしていますが、DJSI Worldに採用されたのはわずか6社で、そのうち日系企業はリコーを含めて4社となっています。リコーは、経済側面における「イノベーションマネジメント」、環境側面における「製品環境責任」、社会側面における「デジタルインクルージョン\*」の項目において最も高い評価を獲得しました。

今後も、業績面はもちろん環境、社会側面でも高い評価を獲得し続け、企業価値の向上を図っていきます。

\*デジタルインクルージョン：できるだけ多くの人々にITの恩恵を及ぼすこと

## ◆インド教育サービス事業の準備調査が JICAの支援対象に選定

2013年8月、リコーと国際NGOであるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン(SCJ)で進めているインド教育サービス事業のための準備調査が、独立行政法人国際協力機構(JICA)のBOP\*ビジネスを促進する枠組みである「協力準備調査(BOPビジネス連携促進)」に採択されました。今後2年間、リコーとSCJは、JICAより調査資金を含めた支援を受け、デリー、ビハール、アンドラ・プラデーシュの3州で今後市場拡大が見込める教育セクターの調査を行います。

具体的には、現地販売会社であるRicoh India Limited.と連携して、市場調査や製品開発に向けた調査等を行い、リコーのプロジェクターを活用した、映像と音声のマルチメディアコンテンツなどによる、子どもたちが理解しやすく、教える大人たちにも扱いやすい教育システムの提供を目指します。同時に、現地の教育省、学校、コミュニティと強いネットワークを有するセーブ・ザ・チルドレン・インドと連携して、教員研修等を含めた教育現場のニーズ把握のための調査を実施し、教材開発および一部の取り組みを試行します。

リコーとSCJは、2年間の協働調査・試行を踏まえて、さまざまなステークホルダーと連携し、学習環境が未整備なインドの教育現場に貢献する教育ソリューションの提供を目指していきます。



プロジェクター映像に見入る子どもたち

\*BOP:Base of the Pyramidの略。年間3,000ドル未満で暮らしている貧困層を指す。貧困層の課題解決に資するビジネスを「BOPビジネス」とよぶ

リコーグループでは、さまざまな取り組みを行っています。  
ここではその主なものをご紹介します。

01

## APEC 交通大臣会合にリコーのソリューション・サービスを提供



9月5日の大臣会合でのペーパーレス会議の様様

9月4日から9月6日まで東京で開催された第8回APEC交通大臣会合において、大規模ペーパーレス会議や新たなクラウドサービスを活用した資料ダウンロード



大規模での安定稼働を実証したタブレット活用ペーパーレス会議アプリケーション[RICOH Smart Presenter]

サービスをはじめとしたソリューション・サービスを提供しました。

本会合は、APEC加盟21の国・地域の交通担当大臣ならびに関係者約300名が交通分野に関わるさまざまな課題について議論する場であり、官民を上げて日本の優れた交通インフラシステムに関する理解促進を図る貴重な機会であると位置づけられています。

リコーは本会合の円滑な運営を先進的テクノロジーとリコーグループの連携によりワンストップでサポートすることで、日本の高い技術力やきめ細かいサービスを海外から参加の皆様にも感じていただくことができました。

02

## スポーツ祭東京2013\*にリコーのITシステムを提供



Wishツリー

9月28日から10月14日にわたって、味の素スタジアムで開催された「スポーツ祭東京2013」において、選手・来場者の願いを形に表すユニークなITシステム「Make a Wishデジタルサイネージシステム」を提供しました。

同システムでは、リコー インタラクティブ ホワイトボード D5500に表示された選手や来場者の皆さんの写真に「スポーツへの想い」「復興への願い」「将来の夢・希望」などの手書きメッセージを書き加えます。そしてそのメッセージを1枚の葉に見立ててステージスクリーンのWishツリーに表示。Wishツリーは、皆さんの想いの数に応じて大樹へと育ちました。

\*第68回国民体育大会本大会・第13回全国障害者スポーツ大会



RICOH THETA

03

## 撮影者を取り囲む全天球イメージを撮影可能 [RICOH THETA] 新発売

リコーイメージング株式会社は、一度シャッターを切るだけで撮影者を取り囲む全天球イメージを撮影することができる世界初\*の画像入力デバイス[RICOH THETA(リコー・シータ)]を11月8日に発売しました。

RICOH THETAは、独自開発の超小型屈曲光学系を採用することにより、上下を含む真の全天球画像の撮影を可能にしました。また、どんな場所へも持ち運びやすい、小型・軽量(約95g)サイズです。

撮影した画像をWi-Fiを通じてスマートフォンに転送し、専用の無償アプリによって閲覧できるほか、指先で画像のサイズや形、構図を変えて楽しむこともできます。

RICOH THETAによって、ユーザーは周囲に存在するすべての物や人などを瞬時に撮影することのできる新しい映像体験、撮影者の意図や予測を超えた光景、斬新な全天球画像を世界の人たちと共有する楽しさを体験することができます。



全天球画像の例

\*コンシューマー製品において、水平方向や半球だけではなく、撮影者を取り囲む空間すべてをワンショットでキャプチャーできる点において。2013年10月時点、リコーイメージング社調べ

04

## Kマウントデジタル一眼レフカメラ最上位機種 [PENTAX K-3] を新発売

リコーイメージング株式会社は、デジタル一眼レフカメラ[K]シリーズの最上位機種として、高性能をさまざまな撮影フィールドで快適に楽しめる優れた機動性を備えた[PENTAX K-3]を11月1日に発売いたしました。

本製品は、有効約2,400万画素の高精細画像や27点AF、最高約8.3コマ/秒の高速連写など、大幅な高性能化を実現しています。新たに光学ローパスフィルターを搭載することなくモアレを軽減できる世界初\*の画期的な新技術“ローパスセクター”機能を備えており、撮影被写体に合わせた最適な設定を1台でカバーすることが可能です。また、リコーブランドの製品で定評のあるマルチパターンオートホワイトバランスなども備えるなど、開発のシナジー効果が結実した意欲的なモデルとなっています。

\*レンズ交換式デジタルカメラとして。2013年10月時点、リコーイメージング社調べ



PENTAX K-3

## ■株主様向け企画のご報告

リコーでは、株主の皆様当社に対するご理解を深めていただくため、株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催しております。



### 市村自然塾見学会 満足度100%

良かった 100%



5月11日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様15名をご招待し、「市村自然塾 関東」（神奈川県）の見学会を実施いたしました。当日は、本社に集合しバスで自然塾に移動後、食堂にて塾生たちとともに自然塾で採れた野菜を中心とした昼食をとりました。

枝村塾頭より自然塾の概要説明を受け、塾舎および周辺の農園を見学し、その後、あいにくの雨模様のため塾舎近くでの茶摘みの様子をご覧いただきました。株主の皆様からは、「みんな生き生きして輝いていた。子どもは無限の可能性や力を持っていて、それを引き出せる場所だと思います。」「今どきの子どもたちにぜひ体験してほしいプログラムだと思った。塾で学んだ子供たちはきっと素晴らしい大人になってくれると思う。」といったご感想を頂戴しております。



### リコーフィル演奏会

満足度97.6%

良かった 97.6%  
どちらでもない 2.4%

7月14日、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様（ペア193組 360名）を「リコーフィルハーモニーオーケストラ第54回演奏会」（神奈川県）にご招待いたしました。

株主の皆様からは、「選曲も良く楽しい時間を過ごさせていただきました。」「暖かい、心のこもった迫力ある演奏でした。」「リコーの文化活動に対する企業理念に触れることのできた演奏会でした。」といったご感想を頂戴しております。



### ラグビー観戦会 満足度91.8%

良かった 91.8%  
悪い 0.6%  
どちらでもない 7.6%

9月27日（東京都：東芝ブレイループス戦）および10月5日（大阪府：近鉄ライナーズ戦）、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様（各ペア288組 568名、ペア147組 247名）をリコーラグビー部BlackRamsの試合にご招待いたしました。当日は、残念ながら各試合11対26、19対35と勝利を飾ることはできませんでしたが、株主の皆様からは大きなご声援をいただきました。

株主の皆様からは、「残念ながら負けましたが、楽しく最後まで一生懸命応援させてもらいました。」「戦うスポーツの素晴らしさを十分に味わえ心から満足しました。」といったご感想を頂戴しております。



\*株主様向け企画は、単元株式ご所有の株主様のみを対象とさせていただきます。

## ■ 株式情報 (2013年9月30日現在)

### 株式の状況

発行可能株式総数	1,500,000,000 株
発行済株式総数	744,912,078 株
株主数	42,665 名

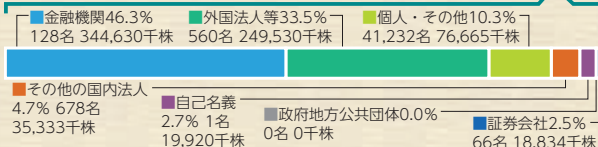
### 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	74,410	10.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	53,351	7.4
日本生命保険相互会社	35,725	4.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	23,654	3.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	21,573	3.0
日本興亜損害保険株式会社	18,198	2.5
公益財団法人新技術開発財団	15,839	2.2
リコー持株会	12,583	1.7
THE BANK OF NEW YORK, TREATY JASDEC ACCOUNT	11,766	1.6
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	10,305	1.4

- (注) 1.上記のほか、自己株式が19,920千株あります。  
 2.当社への出資には、上記以外に日本興亜損害保険株式会社が日本マスタートラスト信託銀行株式会社に信託財産として委託している当社株式1,000千株(0.1%)があります。当該株式は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社が株式名義人となっておりますが、議決権行使については日本興亜損害保険株式会社が指図権を留保しております。  
 3.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### 株式の所有者別状況の推移

	2011年度	2012年度	2013年度 当第2四半期	
金融機関	株主数(名)	146	137	128
	株式数(千株)	360,239	362,829	344,630
外国法人等	株主数(名)	523	550	560
	株式数(千株)	220,065	226,789	249,530
個人・その他	株主数(名)	45,150	43,925	41,232
	株式数(千株)	84,101	83,208	76,665
その他の国内法人	株主数(名)	724	704	678
	株式数(千株)	35,943	35,565	35,333
自己名義	株主数(名)	1	1	1
	株式数(千株)	19,831	19,875	19,920
政府地方公共団体	株主数(名)	0	0	0
	株式数(千株)	0	0	0
証券会社	株主数(名)	70	71	66
	株式数(千株)	24,733	16,645	18,834
合計	株主数(名)	46,614	45,388	42,665
	株式数(千株)	744,912	744,912	744,912



## ■ 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで

**定時株主総会** 毎年6月下旬

**基準日** 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日  
 中間配当 毎年9月30日

**株主名簿  
 管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

**郵便物送付先  
 (電話照会先)** 〒168-0063  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 証券代行部  
 TEL(0120)782-031(フリーダイヤル)  
 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の  
 全国各支店で行っております。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

# 企業情報 (2013年9月30日現在)

## 会社の概況

商号 株式会社リコー  
RICOH COMPANY, LTD.  
本店所在地 東京都大田区中馬込一丁目3番6号  
Tel. (03) 3777-8111  
設立 1936年2月6日  
資本金 1,353億6,478万9,556円  
従業員数 9,120名  
上場取引所 東京、名古屋、福岡、札幌、パリ  
証券コード 7752

## 取締役および監査役の状況

★取締役	近藤 史朗	取締役(社外)	梅田 望夫
★取締役	三浦 善司	☆取締役(社外)	野路 國夫
取締役	佐々木 志郎	監査役(常勤)	皆川 邦仁
取締役	稲葉 延雄	監査役(常勤)	篠田 光弘
取締役	松浦 要蔵	☆監査役(社外)	湯原 隆男
取締役	山下 良則	☆監査役(社外)	矢吹 公敏
取締役	佐藤 邦彦		
取締役	金丸 建一		

(注) ★は代表取締役を示しております。  
☆は独立役員を示しております。

## 今後のIRスケジュール (予定)

2014年 1月末頃	4月末頃	6月	6月末
第3四半期 決算発表	通期 決算発表	招集ご通知発送 RICOH REPORT 発送	定時株主 総会

## WEBサイトのご案内

最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。

<http://www.ricoh.co.jp/>



株主総会 (6月開催)  
後に実施した経営説明  
会会の動画を配信し  
ております。  
ぜひご覧ください。

単元株式数に変更となります。

1,000株 → 100株

投資家の皆様にとって投資しやすい環境を整備し、当社株式の流動性の向上および投資家層の拡大を図るため、2014年1月1日より、単元株式数を1,000株から100株に引き下げることにいたしました。

※ 単元株式数の変更に伴い、2014年1月1日をもって、東京、名古屋、福岡および札幌の各証券取引所における売買単位も1,000株から100株に変更されることとなります。

株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号  
TEL (03) 3777-8111



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。



ミックス  
責任ある木質資源を  
使用した紙  
FSC® C022915

